○研究の概要

幼児・児童・教職員の実態

幼児

○小学校ってどんなところかな。ドキドキするな。楽しみだな。緊張するな。

教職員

㊐就学前施設での経験が小学校以降の学びにつながるようにするには、どうしたらよいだろう。

㊥異なる園から来た子どもたちの様々な経験を、どう小学校の学びにつなげていけばよいだろう。

1年生

○いろいろな保育園、幼稚園、こども園から入学してくるみんなと楽しく勉強できるかな。

育みたい幼児の姿・目指す児童の姿

5歳児の姿

夢中で遊びこむことを通して、意欲をもって物事に取り組める幼児

1年生の姿

友達と関わることを通して、学びに向かっていく児童

2年生の姿

活動に没頭することを通して、学び続ける児童

研究の仮説

○環境の構成を工夫することで、自分から環境に関わり、課題を見付け、解決しようとする幼児・児童が育つだろう。

○就学前施設における経験や活動を見直したり、小学校での学習にそれらの経験や活動を生かしたりすることで、幼児・児童の主体的な学びを引き出すことができるだろう。

研究の内容

(1) 幼稚園と小学校の合同研究組織による研修会等の実施

(2)「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」の作成及び実践

(3) 小学校施設内に設置した「ななはけラボ」の活用と活用計画の実践と検証

(4) 幼児・児童の双方にとって効果的だと考えられる交流活動の通年実施

○「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」について

本研究において、５歳児の指導計画は、小学校の教科学習における「国語」「算数」「生活」へのつながりが分かりやすいと考えられる「文字・言葉」「数量・図形」「自然」の視点で作成している。幼小の教職員が、幼児教育と小学校教育のつながりを意識して指導することで、幼児・児童の主体的な学びを引き出せると捉えている。

5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画

3～4歳児　通常の教育課程

5歳児

文字・言葉

数量・図形

自然

上記３点の視点で作成した指導計画を基に、多様な活動及び経験ができるようにする。

小学校第1・2学年

国語

算数

生活

第3学年以上　通常の教育課程

○「ななはけラボ」について

○幼小の円滑な接続を図るための手だての一つとして、第七峡田小学校の校舎内に保育室と教室の要素を併せもった「ななはけラボ」を設置している。幼児や児童が様々な場面で「ななはけラボ」を活用することを通して、教育効果が更に高まることをねらいとしている。

○年間を通して幼小の教職員が話し合い、その時期や活動内容に適した環境づくりに努めている。例えば、１期には国語・算数・生活科の要素がバランスよく内包されるような教具の配置をしたり、３期には身近なものの形に注目できるような教具・掲示物の準備をしたりしている。

○幼児と児童の活動が双方向に働き、それぞれの遊びや学びがより多方面に広がってきた。幼児にとっては安心して自己を発揮し小学校への親しみをもつ場となっており、児童にとっても学習成果を発揮できる場所となっている。